

## 【学校評価】（別紙「平成30年度学校自己評価」参照）

### ◇重点目標に対する自己評価

- 1 基本的な生活習慣の確立 B
  - ・時間厳守、挨拶励行、整理整頓の実践と規範意識の高揚を図る。
  - ・正しい携帯電話の使い方を指導する。
- 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 B
  - ・個性や能力に応じたわかりやすい授業を実践し、生徒一人一人の学力を高める。
  - ・資格取得、コンテスト、競技大会への挑戦をとおり、生徒に成功体験をあげてもらい、生徒の実践力を高める。
- 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 A
  - ・工業の特色を生かした地域連携・交流を推進し、地域に根差し信頼される学校づくりに努める。
  - ・福祉教育をとおりした地域・国際貢献活動の推進に努める。
- 4 部活動の充実 A
  - ・自主性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる。
  - ・体力の向上と豊かな情操、さらによりよい人間関係を育成する。

### ◇評価結果に基づく今後の改善方策等

- ・「基本的な生活習慣の確立」については、アンケート結果から、出席状況や挨拶・服装などのマナー、清掃活動など生徒の生活全般の取り組みは、おおむね問題はなく、少しずつ意識を高めて学校生活を送っている生徒が増えているように思われる。しかし、一番憂慮しなければならないのは、携帯電話の使用についてである。長時間使用している生徒の中には、ネット依存症になっている、またはなりつつある生徒もいるかもしれないという危惧がある。使用頻度が増えればそれだけトラブルに巻き込まれる危険性が高くなるが、トラブルのことだけでなく自分の体に与える影響などについても、もっと認識をさせる必要があると思われる。これは学校だけでは対応できない面もあり、保護者との情報交換を密にし、協力体制を取りながら生徒が健全な生活を送れるように指導していきたい。
- ・「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」については、アンケート結果をみると、多くの項目で良好な結果が出ており、大きな問題は見当たらない。基礎学力の定着や専門的な知識・技術の習得が本年度も達成できている。生徒の資格取得、コンテスト、競技大会への取組も意欲的に行われ、県大会優勝および2位入賞、さらに関東大会出場、全国大会出場を達成するなど優秀な結果を残している。資格挑戦については、2年生が最も高い意欲を示していることがわかり、取得率も高い。全体的に生徒の学びたいという強い思いがアンケート結果からうかがえる。来年度も生徒の気持ちに応えられるように、継続と更なる向上のために取り組んでいきたい。
- ・「ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進」については、アンケート結果については多少の増減はあるものの、全体としては高評価を得られており、今年度もさまざまな活動を行うことができている。今年度は「高校生未来の職業人育成事業」として小・中学生に「竹あんどん」の製作を指導したり、こどもパソコン「SkyBerryJAM」の活動では東京での大きなイベントへの出展も果たしたりしている。このような取り組みを、生徒はもちろん、より多くの方々に知ってもらえるよう、校内だけでなく校外へもどんどん広報活動をしていきたい。
- ・「部活動の充実」について、85%強の生徒が部に所属し、8割を越える生徒が積極的に部活動に取り組んでいる。バレーボール部、空手道部、弓道部、ロボット研究部、電気技術研究部の5部が県大会3位以上の優秀な成績を収め、関東大会、全国大会に出場している。また、陸上競技部、ソフトテニス部、テニス部の3部が県大会でベスト8以上の優良な成績を収めている。活動が停滞している運動部はなく、『出ると負け（常1回戦敗退）』の運動部は存在していない。上位大会を目指し、日々の活動を充実させている運動部がほとんどである。文化部も、科学技術委員会を中心に、日々の活動を充実させている部が多く、ものづくりコンテスト・技能大会、ロボットコンテスト等、多くの大会で入賞者を輩出している。具体的な数値、結果としては表われていないが、これらの活動状況を踏まえ、部活動が異年齢との交流を深め、幅広い人間関係の醸成に資する活動となっていると推察される。来年度も引き続き部活動全体の充実を図っていきたい。

## 【学校関係者評価】

### ◇評価結果

本校における学校運営全般に対する意見をいただき、本校の良い点や改善すべき点など客観的に自校を知ることができた。学校評議員からは主に下記のような要望や意見があった。

- 1 国語・数学・英語と専門の全学年基礎力テストを行っているが、専門必修科目を取り入れるなど、工業高校の指標として適切に活用している。
- 2 1年以内で離職する生徒の原因分析は行っているのか。就職実績を向上させるためにも、学力を向上させてもらいたい。
- 3 基本的な生活習慣の確立は本校の教育目標。生徒指導の問題の質も変化している。一斉指導に力を入れて、問題をゼロにしてほしい。
- 4 素晴らしい生徒活動報告会だった。聞く態度も良い。先生の指導が良く連動している。生徒もそれを受けて頑張っている。協力して学校を挙げて取り組んでいる。先生方の情熱、技術は工業高校の屋台骨である。
- 5 保護者や地域住民等の生の声を聞くと、栃工の評判が良い。

### ◇評価結果に基づく今後の改善方策等

#### <学校運営に生かされた事例>

- ・全学年基礎学力テストの実施や資格取得の推進など、普通科目、専門科目ともに学力向上に取り組んだため、卒業生197名中、175名が就職するという高い就職実績を残している。また、一年以内の離職率も他校に比較して小さい。

#### <今後取り組む改善方策>

- ・今後も基礎学力の向上や資格試験取得の推進を図ることで、就職実績とともに、大学等への進学実績の向上にも努めていく。
- ・スマートフォンの普及により、SNSに関係する生徒指導案件が増加している。また、不登校傾向の生徒や、発達障害を抱えた生徒も散見されるようになり、生徒指導における教育相談の重要性も増加している。新たな生徒指導上の課題に的確に対応できるよう体制を整えていきたい。
- ・タイ王国ボランティア交流研修や空飛ぶ車椅子活動を今後も継続していきたい。また起業家推進育成事業で開発した「こどもパソコン SkyBerryJAM」を使った小学生向けの出前講座や、地域の小・中学校での修理活動、「光と音のページェント」など本校の特色ある活動を今後も継続させ、生徒が主体的に取り組める環境を整え「輝く場面」を多く提供していくことで、地域に愛され続ける学校を目指していきたい。